

国語 第2学年 せつめいのしかたに 気をつけて読み、それをいかして書く

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書の第2学年下巻（令和6年度版）に載っている、作り方を説明する文章と、それをいかして書く教材を組み合わせた単元。光村図書の年間指導計画例では11月に扱っている。他の会社の教科書を使う学級では目次で確かめる。文章のまとまりの分け方と段落の数は、使う教科書の本文で確かめる。

この単元で子どもが最後にできるようになること

この単元を終えた子どもは、作り方を説明する文章が、材料と道具・作り方・楽しみ方のまとまりでできていること、作り方は順序を表す言葉でつながり、段落の初めの文で何をするかを示していることを、文章を指して説明できる。そのうえで、自分が選んだおもちゃの作り方を、まとまりと順序に気を付けて書き、読んだ人がそのとおりに作れるかを確かめて書き直せる。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第1学年及び第2学年〕〔知識及び技能〕(2)ア	ア 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。
〔第1学年及び第2学年〕 B 書くこと(1)ウ	ウ 語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。
〔第1学年及び第2学年〕 C 読むこと(1)ウ	ウ 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。
〔第1学年及び第2学年〕 の目標(2)	(2) 順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつことができるようにする。
〔第1学年及び第2学年〕 の目標(3)	(3) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にしてい、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。
〔第1学年及び第2学年〕 C 読むこと(1)ア	ア 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。
〔第1学年及び第2学年〕 C 読むこと(2)ア	ア 事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動。
〔第1学年及び第2学年〕 B 書くこと(1)ア	ア 経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。
〔第1学年及び第2学年〕 B 書くこと(1)イ	イ 自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。
〔第1学年及び第2学年〕 B 書くこと(1)エ	エ 文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。
〔第1学年及び第2学年〕 B 書くこと(1)オ	オ 文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。

学習指導要領の項目	原文
〔第1学年及び第2学年〕 B 書くこと(2)ア	ア 身近なことや経験したことを報告したり、観察したことを記録したりするなど、見聞きしたことを書く活動。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(1)	(1) 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、言葉の特徴や使い方などを理解し自分の思いや考えを深める学習の充実を図ること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(3)	(3) 第2の各学年の内容の〔知識及び技能〕に示す事項については、〔思考力、判断力、表現力等〕に示す事項の指導を通して指導することを基本とし、必要に応じて、特定の事項だけを取り上げて指導したり、それらをまとめて指導したりするなど、指導の効果を高めるよう工夫すること。なお、その際、第1章総則の第2の3の(2)のウの(イ)に掲げる指導を行う場合には、当該指導のねらいを明確にするとともに、単元など内容や時間のまとまりを見通して資質・能力が偏りなく育成されるよう計画的に指導すること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(5)	(5) 第2の各学年の内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「B書くこと」に関する指導については、第1学年及び第2学年では年間100単位時間程度、第3学年及び第4学年では年間85単位時間程度、第5学年及び第6学年では年間55単位時間程度を配当すること。その際、実際に文章を書く活動になるべく多くすること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(7)	(7) 低学年においては、第1章総則の第2の4の(1)を踏まえ、他教科等との関連を積極的に図り、指導の効果を高めるようにするとともに、幼稚園教育要領等に示す幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連を考慮すること。特に、小学校入学当初においては、生活科を中心とした合科的・関連的な指導や、弾力的な時間割の設定を行うなどの工夫をすること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(9)	(9) 障害のある児童などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 2(2)	(2) 第2の内容の指導に当たっては、児童がコンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用する機会を設けるなどして、指導の効果を高めるよう工夫すること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 3(1)	(1) 教材は、第2の各学年の目標及び内容に示す資質・能力を偏りなく養うことや読書に親しむ態度の育成を通して読書習慣を形成することをねらいとし、児童の発達段階に即して適切な話題や題材を精選して調和的に取り上げること。また、第2の各学年の内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」及び「C読むこと」のそれぞれの(2)に掲げる言語活動が十分行われるよう教材を選定すること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 3(3)	(3) 第2の各学年の内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「C読むこと」の教材については、各学年で説明的な文章や文学的な文章などの文章形態を調和的に取り扱うこと。また、説明的な文章については、適宜、図表や写真などを含むものを取り上げること。

単元の目標

共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解する（(2)ア）。時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を捉え、文章の中の重要な語や文を考えて選び出す（C(1)ア・ウ）。自分の思いや考えが明確になるように事柄の順序に沿って簡単な構成を考え、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫する（B(1)イ・ウ）。説明のしかたの工夫を進んで見付け、それをいかして書こうとする（学年の目標(3)）。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。（(2)ア）	①「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。（C(1)ウ） ②「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。（B(1)ウ）	①進んで、事柄の順序や説明のしかたに気を付けて読み、学習の見通しをもって、おもちゃの作り方を説明する文章を書こうとしている。

単元の流れ

全14時間。光村図書の年間指導計画例（令和6年度版）が、この単元に14時間（読むこと6・書くこと8）を配当している。次ごとの内訳はこちらの案。学校の年間指導計画に合わせて増減する。国語の標準授業時数は第2学年で年間315単位時間（学校教育法施行規則 別表第一）。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○おもちゃを作ったり遊んだりした経験を話し合う。 ○教科書の文章を読み、単元の課題「せつめいのしかたのひみつを見つけて、おもちゃの作り方をせつめいする文章を書こう」をつかむ。 ○誰に向けて書くかを決める。	態①（観察・発言）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第2次	2	○文章全体を、前書き・材料と道具・作り方・楽しみ方のまとまりに分け、それぞれに何が書いてあるかを確認める。	
	3	○作り方の段落を読み、順序を表す言葉と、段落ごとの作業の順を確認める。 ○順序をばらばらにした文を並べ替え、並べ方の手がかりになった言葉を話し合う。	知①（ワークシート）
	4	○教科書の説明を読みながら紙コップ花火を作り、迷った所に付箋を貼る。	
	5 （本時）	○作った経験を基に、作り方の段落から、作るのに欠かせない語や文を選び出し、その語や文が無いとどうなるかを話し合う。 ○段落の初めの文と後の文の役割を考える。	思①（ワークシート・発言）
	6	○写真と文を線で結び、写真が何を助けているかを話し合う。 ○見付けた工夫を「せつめいのひみつ」としてまとめ、書く時に使う工夫を選ぶ。	知①（ノート）
第3次	7	○作り方を説明するおもちゃを決め、作りながら、材料と道具、作る手順をメモに書き出す。	
	8	○メモを、材料と道具・作り方・楽しみ方のまとまりに分け、作り方の手順を並べて組み立てを考える。	
	9	○前書きと、材料と道具のまとまりを書く。	
	10	○作り方のまとまりを、順序を表す言葉と段落の初めの文に気を付けて書く。	思②（文章）
	11	○作り方のまとまりの続きと、楽しみ方のまとまりを書く。 ○写真や絵を入れる場所を決める。	思②（文章）
	12	○書いた文章を読み返し、語と語や文と文との続き方と、抜けている手順がないかを確認めて直す。	態①（文章の見直し）
第4次	13	○友達の記事だけを見て、そのとおりにおもちゃを作れるかを試し、分かりやすかった所と迷った所を伝え合う。	
	14	○伝えてもらった迷った所を書き足す。 ○学習を振り返る。	態①（振り返り）

本時の案

本時の目標：作り方の段落から、おもちゃを作るのに欠かせない語や文を、実際に作った経験を基に考えて選び出し、そのわけを話せる。(C(1)ウ)

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	1 前時に作った紙コップ花火を見せ合い、うまくいった所と迷った所を思い出す。 2 本時のめあてをつかむ。 ○「作る時に、教科書のどの言葉が役に立ちましたか」 【めあて】作り方の大じなことばや文を見つけて、そのわけを話そう。 〈予想される児童の反応〉 ・写真を見たら、どこをどうすればいいかはっきりした。 ・順番どおりにしたら、うまくできた。 ・ここで迷った。もう一回読んだらできた。	・前時に迷った所に貼った付箋は、教科書に貼ったままにしておく。 ・作った紙コップ花火を机の上に置かせ、文と見比べられるようにする。
展開 (分)	3 作り方の段落を一人で読み、作るのに欠かせなかった語や文に線を引く。 ○「この言葉がなかったら、作る時にこまるのはどれですか」 4 線を引いた語や文と、そのわけをペアで話す。 5 全体で話し合う。先生が、大事な語や文を抜いた作り方の文を見せ、元の文と比べる。 ○「どこがちがいますか。ぬけていると、どうなりますか」 6 段落の初めの文と、その後の文を比べる。 ○「段落の初めの文には、どんなことが書いてありますか。後の文には何が書いてありますか」 〈予想される児童の反応〉 ・順番を表す言葉がないと、どれから作るか迷う。 ・どこを、どのくらい、が書いていないと、ちがう形になる。 ・こつが書いてあったので、失敗しなかった。 ・写真と同じことが文にも書いてある。 ・初めの文は、何をすることが短く書いてある。 ・後の文は、詳しいやり方や、うまくいくこつが書いてある。	・線を引けない子には、作った紙コップ花火を手を持たせ、作った順に「この時、どの文を見たかな」と聞く。 ・「全部大事」と言う子には、「一つだけ消すとしたら、どれなら作れるか」と聞いて比べさせる。 ・大事な語や文を抜いた文は、先生が教科書の本文を基に作り、拡大して掲示する。 ・どの語や文が出るかは、使う教科書の本文で先生が確かめておく。 ・早く終わった子には、自分が書くおもちゃの説明で使いたい語や文を選ばせる。 ◎思① 文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。(ワークシート・発言)

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
まとめ (分)	7 学習をまとめる。 【まとめ】作り方のせつめいでは、じゅんじょをあらわすことばと、なにをどのようにするかをくわしく書いた文が大じ。だんらくのはじめの文で、することを先に書いている。 8 振り返りを書く。 〈予想される児童の反応〉 ・自分のおもちゃの説明でも、初めの文にすることを書きたい。	・まとめは子どもから出た言葉を使い、「せつめいのひみつ」の掲示に書き足す。 ・振り返りは「大事だと思った語や文と、そのわけ」と「自分が書く時に使いたいこと」の二つで書かせる。

板書の構造（縦書き・右から左へ）

右端に日付、題名、めあて。その左に、作り方の段落を拡大して貼り、子どもが選んだ大事な語や文に赤で線を引く。その下に、その語や文を選んだわけ（子どもの言葉）。中ほどに、大事な語や文を抜いた文と元の文を上下に並べ、違う所を囲む。その左に、段落の初めの文と後の文の役割（することを短く・詳しいやり方とこつ）。左端に、まとめと「せつめいのひみつ」の掲示、振り返りの二つの観点。

つまずきやすい所と手当て

つまずきやすい所は五つ。一つ目、まとまりと段落の区別がつかない。手当ては、まとまりの見出しを色画用紙で示し、まとまりの中に段落があることを、文章全体を一枚に縮めた図で見せること（C(1)ア）。二つ目、順序を表す言葉を覚えると、どの文にも付けてしまう。手当ては、手順が変わる段落の初めにだけ付けていることを、教科書の作り方の段落で確かめること（(2)ア）。三つ目、作った本人には分かっていることを書き落とし、読む人が作れない説明になる。手当ては、友達に文章だけを見て作ってもらい、迷った所に付箋を貼ってもらうこと（B(1)エ・オ）。四つ目、「ここをこうします」のように指す言葉ばかりで、どこを、どのくらい、どのようにが書けない。手当ては、「どこを」「どのくらい」「どのように」のカードを手元に置き、一文ごとに当てはめること（B(1)ウ）。五つ目、材料と道具の書き落とし。手当ては、作る前に机に出した物を全部書き出し、作った後に使わなかった物を消すこと。

プリントの案

文章のまとまり図（第2時）

縦に、前書き・材料と道具・作り方・楽しみ方の四つの枠を並べ、それぞれに「何が書いてあるか」を一行で書く欄。作り方の枠の中に段落の数だけ小さい枠を書き足せるようにしておく。本文は先生が教科書から書き入れるので印刷しない。C(1)アに合わせた。

並べ替えカード（第3時）

作り方の段落の初めの文を一枚ずつのカードにし、ばらばらにして並べ替える。裏に「並べた手がかりの言葉」を書く欄。カードの文は先生が教科書から書き入れる。〔知識及び技能〕(2)アの「事柄の順序」に合わせた。

大事な語や文のワークシート（本時）

左に「作るのに欠かせなかった語や文」を書き写す欄、右に「それがなくなるとどうなるか」の欄を三組。下に「段落の初めの文には……が、後の文には……が書いてある」の型。C(1)ウに合わせた。

取材メモと組み立てメモ（第7・8時）

取材メモは「おもちゃの名前」「材料と道具（机に出した物を全部）」「作る手順（作った順に一つずつ）」「楽しみ方」の欄。組み立てメモは、四つのまとまりの枠に、取材メモを切って貼れる形。B(1)ア・イに合わせた。

作ってみようカード（第13時）

友達の文章だけを見て作り、「分かりやすかった所」「迷った所（どの文か）」「書き足すとよいこと」を書いて渡すカード。B(1)オと、書いた文章の見直しに使う。

出典：小学校学習指導要領（平成29年告示）（文部科学省）（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語』（2020年）。評価標準の文末と3観点の形、領域ごとの書き出しの形（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）／同 参考資料の一覧ページ（国立教育政策研究所）（<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryoku.html>）／学校教育法施行規則 別表第一（国語の標準授業時数 第2学年315）。e-Gov法令検索（<https://laws.e-gov.go.jp/law/322M40000080011>）／光村図書 年間指導計画例 2年（令和6年度版）。単元の時期（11月）と配当14時間（書くこと8・読むこと6）の出典（https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/1916261d-d388-44ac-af42-3aa7e13b6b11/368）／光村図書 小学校国語 年間指導計画・評価計画のページ（令和6年度版）（<https://www.mitsumura-tosho.co.jp/kyokasho/s-kokugo/keikaku>）／光村図書 教材別資料一覧 2年。単元名と教材名の確認（<https://www.mitsumura-tosho.co.jp/kyokasho/s-kokugo/material2nen>）AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ



AI三重